

第20回 「改善工夫」のお店は？

環境マネジメントは、さまざまな効果はあるものの、事務作業料が多いとか、職員の環境配慮意識を保つ事は難しいなどの課題もあるとも言われている。燎原の火の如く広がった地方自治体の ISO14001 は、これからどうなるのだろうか。地球温暖化対策が国際政治問題になるこの時代、手間がかかると言って、静かにフェードアウトすることは許されない状況でもあるが…。

ところで、健康ブームの後押しを受けて自転車が流行っているようだ。サイクリングやツーリングなど、“自転車”を始めたばかりの初心者は、購入した自転車のまま乗っているが、経験者のそれには、その人ならではのこだわりがあるものだ。自転車に限らず、ゴルフや釣り、スキーなど趣味の世界では、習熟と共に、手入れをしながら道具を馴染ませ、パーツを取替えるなど自分らしさを発揮していくようだ。逆に言えば、手に馴染まない道具は、どこか借り物のようで、とっつき難く、作業の手間を負担と感じてしまうのだろう。

環境マネジメントに限らず同じ仕組み・制度を長く継続していれば、制度疲労を起す。制度疲労は、取組の習熟に伴うマンネリ化だけではなく、時間の経過と共に変わる地域ニーズに対応しない、あるいは、職員の入退職による組織構造の変化に対応しない、などによって発生するものであり、一度つくった仕組みや制度は、タイムリーに制度改革や改善を積重ねていかなければ、いずれ制度疲労を起すものだ。

趣味の世界では、道具は手入れをして馴染ませながら使うのだが、環境マネジメントという道具は、なぜ、手入れをしないのだろうか。ブームで始まったかも知れないが、昨今の社会経済情勢を考慮すれば、始めてしまった環境マネジメントを、より自らの自治体らしい取組に改善・改良し、環境効果の高い取組を進めていく必要があるのではないか。

既にいくつかの自治体では、事務作業量対策としては、作業量が少なくなるような管理手順の簡素化や報告サイクルの長期化、あるいは電子化による報告の容易さを求めるなどの対策を講じ、また、職員の意識啓発には、庁内 LAN での EMS 通信のようなメルマガの発信や、表彰制度による職場表彰、実践研修などによる理解促進などの対策を講じている。

知識研が実施した「地方自治体の環境マネジメントに係わる調査研究」によると、EMS を導入している自治体のうち 39.2% (98 自治体) もの自治体は、事務作業量対策などの何らかの改善工夫を実施していると回答があった(次ページ参照)。今年度初めて新任事務局長となった現担当者には、過去の創意工夫が解らない可能性もあるので、回答自治体以外でも、EMS を導入し数年を経ているところでは、いろいろな改善工夫を凝らしている可能性も高い。

どのような改善が効果的なのかについては、ケース・バイ・ケースで特効薬のようなものはない。当該自治体だからこそ、効力を発揮するものだ。

しかし、趣味のお店が関係者の交流拠点となって活動の幅が広がるように、いろいろな改善策を揃えているお店があれば、自らの自治体でも使えそうな「改善工夫」を使ってみて、既往の環境活動の活性化や環境パフォーマンスの向上につながるかも知れない。

そんなことを考え、知識研では、エコバディス(<http://www.ecovadis.jp>)というホームページにお店を出せないかと思っている。

EMSの改善工夫分類

No	取組項目	概要
マネジメントシステムや環境活動成果向上に関する改善工夫		
1	部局目標の設定	全庁共通の環境方針だけでなく部局固有の方針と目標設定、課別環境スローガンの設定し、各所属の主体性を促進させる、などの取組。
2	個別目標の設定	事例を示しながら個別目標を設定し易くする、主要施設の省エネ診断をする、などの具体的な行動につながる目標設定に関する取組。
3	自己管理の徹底	自己把握シート、名札に自らの取組内容を明示、My Action 制度などの、職員ひとりひとりの環境活動を管理する取組。
4	組織編制	ごみ減量推進懇談会や若手職員検討会などを組成し、課題解決を行う、出先所属長への管理権限の委譲、などの取組。
5	研修	エコドライブ講習、エコプリント研修などの実践型研修、事業者等との合同研修、外部講師による研修などの啓発型研修、などの取組。
6	表彰制度	内部監査の結果を活用し、各所属の優良取組の明示、優良取組の表彰と公表、などの取組。
7	電子化	庁内情報システムと連動させた進捗管理、環境記録の電子化、環境管理文書類を庁内LAN上で管理する、などの取組。 E-Leaning 等を含む。
住民等の参加による内部統制の強化(説明責任の明確化も兼ねる)		
8	内部監査への参加	環境マネジメントでの取組に関し、地域住民や事業者、学識者、他自治体職員が、研修や内部監査に参加し、客観的な評価、改善提案する、などの取組。
9	システム評価への参加	環境マネジメントでの取組全般に関し、外部評価委員会や市民アドバイザー制度などを設置し、その取組内容や取組結果を評価、改善提案する、などの取組。
行政効率の向上を兼ねた改善工夫		
10	他の仕組みとの連動	取組内容や取組結果を行政評価制度やISO9001と連動させたり、取組成果を人事評価と連動させる、などの取組。 個別目標設定事例の中で、事務改善目標等を多用することで、事務改善を促進させることもある。

(平成 20 年 1 月 知識経営研究所代表 鈴木明彦)

お問い合わせ

株式会社 知識経営研究所

〒106-0045 東京都港区麻布十番 2-11-5 麻布新和ビル 4F

TEL: 03-5442-8421 FAX: 03-5442-8422

http://www.kmri.co.jp http://www.ecovadis.jp e-mail: info@kmri.co.jp